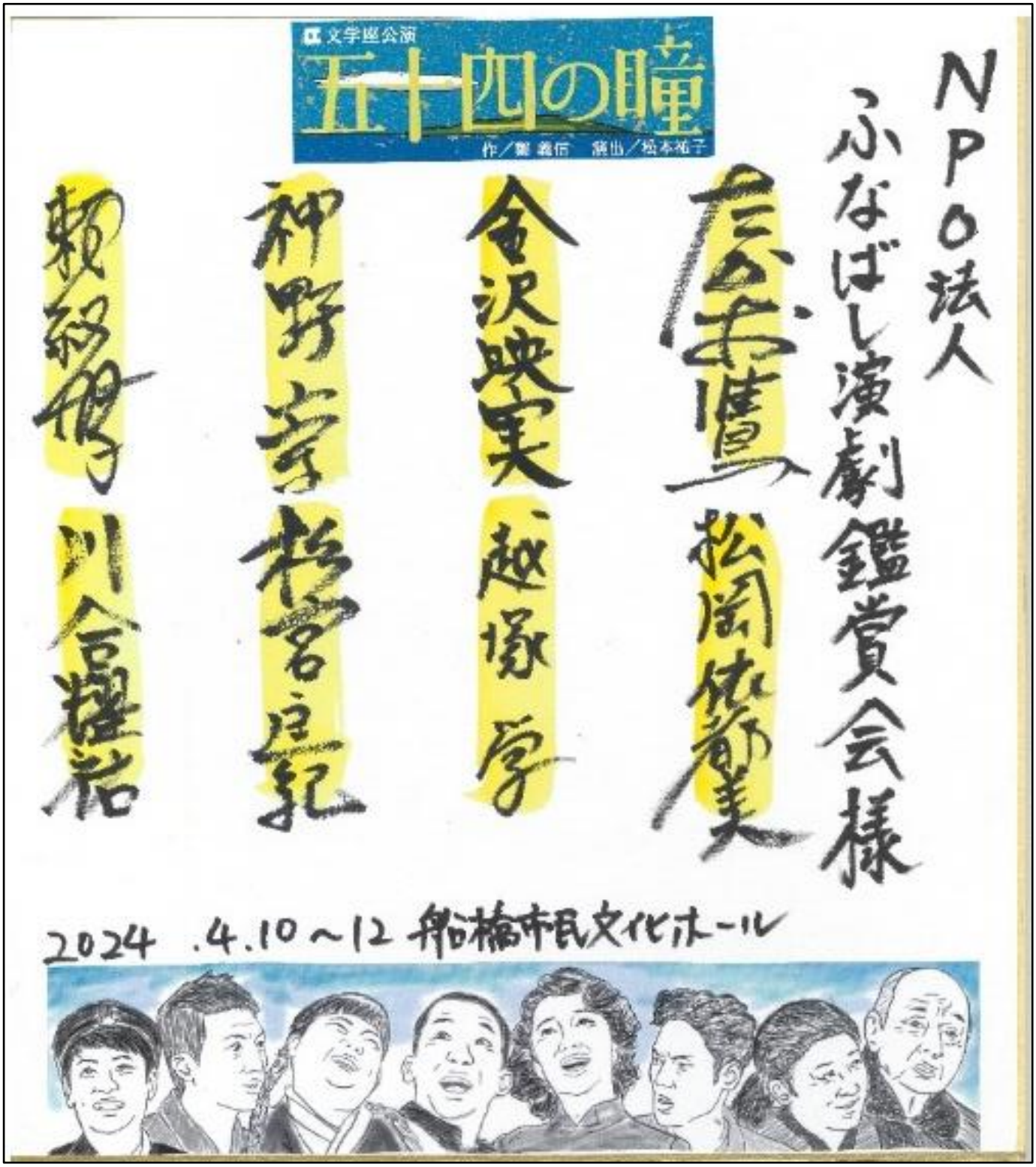
第210回　文学座　公演　　2024年4月

# 「五十四の瞳」
# 感想文集

ＮＰＯ法人　ふなばし演劇鑑賞会



朝鮮から引揚者の一家に育った私ですが、何か懐かしく思いました。日本と韓国は良き隣人であり、これからもいつまでも友人です。（さわらび　氏家義之）

長く続く日韓関係の問題、互いの国の人々の思い。今後の日本と韓国の関係がほどけていけたらいいなあ…と思わせてくれた演劇でした。ぐっと引き込まれる演技、重くならないよう、ユーモアを加えた構成、楽しく観劇できました。
（プラスＯＮＥ　岩澤京子）

とても感動しました。
（デイジー　山田恵子　６０代）

戦前、戦後の日本と朝鮮の関係、時代背景に触れ、自分の知らないことや、知ってこなかったことに気づかされました。１９５０年の朝鮮戦争で朝鮮が二分された後に生まれた自分にとっては、２つの朝鮮は当たり前でした。しかし、日本が2つに分断されたと考えたら…。何もかも自分のこととして考えたら身が持ちませんが、同じ国でも同じ言葉で話せず、自由に行き来できない国が世界にはたくさんあることを意識した作品でした。この作品では、教育は未来を拓くものとなっています。お互いを認め合い、子供達に力をつけていく教育の場が保障される国であってほしいと願います。
『五十四の瞳』…泣いたり笑ったりしながら考えさせられる作品でした。
（アマルフィ　柴野智代　６０代）

不思議なコメディだった。
（ハッピープリンス　田中弘之　６０代）

初めに自分の経験から…。１９５０年代の初頭、朝鮮人学校、朝鮮人学級は既に閉鎖されていたから、在日朝鮮人の子弟は日本人学校で、日本人の子ども達と全く同じ教育を受けていた。
この物語は私が育った東京下町の、このような時代の少し前の話である。（…場所は大阪だが）
学校には朝鮮戦争時、北朝鮮が社会主義化された時に逃れてきた北朝鮮の子弟が多かった。北朝鮮は誰もが平等で平和で、この世の天国のような国との宣伝が広く行き亘っていた。このような時代なので、差別も今とは全く違い、少し生活習慣が異なる隣の人達という感じだった。従って妙な親近感があり、スムーズになじめた。むしろ今の差別感が何時どうして生まれてきたのかが不思議に思える。
変わって本作について、『五十四の瞳』は本家「二十四の瞳」に比べ、瞳の数で大きく上回るが、圧倒するのは瞳の数ではなく、多彩な人物像やキャラクターである。特に少年・少女達とそれを見守る教師達の姿には感動を覚える程であった。
キャストでは柳仁哲（ユ・インチョル）の素朴な素直さが好ましかった。敢えて難点を云えば、メリハリの着けた盛り上がりと、強烈な味付けに欠ける恨みが残った。ただし、本作はそれで訴えるものではない事は充分承知した上で、山場が欲しかった。（じゃんけん　糠澤尚夫　８０代）

一人一人が熱演で見応えがありました。どの方も言葉がはっきりしていて、とても聴きやすかったです。
（ハイネ　中川奈津子　６０代）

最初に長い上演時間だなあと少し退屈しそう…と思っていましたが、最後まで退屈せずに引き込まれていきました。朝鮮問題は永遠の課題で、日本人だから問題という考えになってしまうのか？とも思いました。同じ人間で、人種や国籍を越えて人間として広い視野で生きて行きたいと思わせられました。
高校の時に同級生に朝鮮中学校から来た友達がいました。その子に何も知らずに「そんなに朝鮮が良い国なら、朝鮮に帰れば良いじゃん！」と言ってしまった事を恥ずかしく思います。
（ピーチ　鈴木千春　６０代）

私は大道芸のちゃんへんさんの「ぼくは挑戦人」という自伝を前に読んだ時に、在日の方々の状況を肌感覚で知ったのですが、そのことを思い出しました。
「共産党」「朝鮮総連」などの単語に「？」と感じ、歴史を知りたいなと調べたいことが増えました。分断を利用した総括が裏にあるとは思いますが、信じて団結する人々の歴史は何だったのか、どちらが悪いなどではなく、例えば市民連合の選挙の統一候補擁立の時に感じる「共産党嫌い」が、どこから来ているのか知りたい気持ちが再燃しました。劇、楽しかったです。ありがとうございました。
（バジナ　小林文子　５０代）

兵庫の島で、日本人が朝鮮人学校で共に学んでいた話を初めて知りました。
幼なじみの関係があたたかでした。今日まで解決されていない問題があること、受け止めました。
（さくらんぼ２　浜島　女）

場面が変わる暗転の真っ暗さにびっくりして、「動かす係の人、大丈夫かなあ…」と思ったのもつかの間、その時々の流れて来る音が（木琴かな…）ぴったりで、またまたドキリ、「いい感じだなあ～」瀬戸内海の波音や風が伝わって来る様な居心地の良さがありました。
『五十四の瞳』の名づけの意味も後半段々と…あの部屋の板壁にかけていた“児童生徒たちの顔”の額絵が大勢いた（２７名～２名）にと何回も架け替えられている事に教えられて、４人の同級生が２人亡くなり、残りの２人が結ばれてラスト。小さな島に実存した学校に出会えた事にカンパイです。ありがとう！サークル仲間と感想を伝え合って、後味も楽しみます。
（ユミ丸　川合由美子　６０代）

日本人も朝鮮人も仲良く学び暮らしていた平和な島に、ＧＨＱの指令により朝鮮人学校は閉鎖され、朝鮮戦争に巻き込まれた。強い友情で結ばれていた仲間も、外圧によって引き離されていく様子はとても悲しく思いました。
ましてや、同じ朝鮮人が戦争で北と南に分かれ、敵対することになるとは何とも嘆かわしいことです。
ドラマは人種を越えた友情や、人間関係を見せて下さり、ホッとしたり笑ったりできて良かったですが、現在世界の各地で起きている戦争の陰でも、このドラマ以上の悲惨な差別や殺人が行われていることに思いを馳せ、人間の罪の繰り返しを何とかストップできないものかと考えさせられました。
（昴　無記名　女　８０代）

芝居は終戦直後の瀬戸内海の小島にある朝鮮の小学校からはじまる。題名からすぐに、高峰秀子主演の小豆島を舞台にした映画・壷井栄原作「二十四の瞳」を六区までぞろぞろ歩いて見に行った70年前を思い出す。そしてぼくの通った小学校二組の同級生に朝鮮の友達が数人いて、一緒に遊んだことが昨日のことのように目に浮かんだ。

けれど占領軍が朝鮮学校を閉鎖したことは知らなかった。この芝居のように大人も子供もわけ隔てなく仲良く付き合っている様子はとてもよいことだと観ていた。

だが、康春花先生に恋した吉田良平君の母は二人の結婚をしぶって認めず、話は流されて残念ながら悲恋に終わってしまう、というように人によっては、いな、大半はというべきか、どこか心の底にわだかまりが隠れているのを作者ははっきりと掴んでいる。また朝鮮戦争はすでに終わっていたが、あとで教科書で教わったけれど、同じ民族同士で戦うということがいかなる悲劇であるか、そして今日まで大きく尾を引いている、その苦い現実はぼくらの想像を超えている。

なかなか隣国との重い歴史を生々しく振り返らないぼくらであることを、それでいいのかよ！と、どやされた気がする。ひとりの日本人として、人間であることの在り方を見つめ直せよ、としずかに問われていると思った。佳き芝居を鑑賞でき、文学座に感謝の辞を捧げます。

（スズロ　ムラタ）

朝鮮学校の歴史を学ばさせて頂きました。（歩っ歩　桜井恵子　70代）

戦後、人生を翻弄された人達がたくさんいたことは知っていたが、民族でここまで差別された人がいたこと、具体的であり良くわかった。涙あり笑いありの2時間半、ありがとうございました。

最近LGBTQへの理解を求める声がテレビでも取り上げられているが、個人＝生物だ！地球人だと考えれば、こんな運動もなくなるのだ…と思った。

（無記名　女　60代）

戦後の混乱した時代を詳しく知っている私は、島の学校の先生たちの出自の悩みをこの劇でまた知りました。

戦中の私は自分の日本人としての事ばかり考えていましたが、朝鮮人の方々の辛い生活に思いを馳せ、恥ずかしい思いです。

（ハッピープリンス　田中弥生　80代）

朝鮮学校については知っているつもりでしたが、ほんの一部の事だけの“知識”だと再確認させられたお芝居でした。在日の方達の苦しみは一言では表せないと思います。しかし、今回このお芝居を観ることで、様々な方が理解しようとすることが大切だと思います。

3月中旬にたまたま文部科学省の前を通りかかりました。すると、現在の朝鮮学校の関係者の方々が訴えていました。“他の外国人学校のように扱って欲しい。認めて欲しい。朝鮮学校を排除しないで欲しい”というものでした。私達はこのお芝居を通して、様々な方の立場を少しでも理解していきたいと思います。

（KISS3　弘重三枝子　60代）

楽しみにしていました。毎日新聞夕刊に、この西島の話が載りました。息子家族の住む姫路です。姫路港にも行っています。いい話を選んでくださったと係の方に感謝…。係の方にはいつもいつも感謝ですが…。耳が悪いものですから、いつも前の方の良い席をいただいています。ありがとうございます。

今回初めて見にくさを感じました。なぜか…中央のソファに座っての話がよく見えなくなってしまうのでした。5列の席から4列の方の頭が大きく、邪魔になってしまうのでした。大事な話をされる方が見えなくなってしまい、とても残念でした。…前半は気になりました。

後半はどうでしょうか？（ここまでは休憩中に書きました。）面白かったです。2つの国がこんな風に生きていくことに、悲しみ、苦しみ、そして喜び。本当によく演じられ、心うつこといっぱいありました。ステキでした。舞台の配置というか、はりたし廊下がちょっと不満。

（ピリカ　木村眞理子　70代）

在日の人々は、大変な目にあったんだね。日本政府は戦争責任を果たしていない！ことがよく分かった。

（桜井美徳　男　70代）

あっという間の2時間半でしたが、とても考えさせられた事、関西のイメージのあるセリフなど楽しめました。

（タンザナイト　井上ひさ子　60代）

あまり面白くなかった。

（無記名　70代）

日本語・韓国語と混じっていたので、最初話の内容を理解するのに？となるかと思いましたが、お芝居の表現や前後の内容で理解出来たり、雰囲気がわかり、集中して観ていました。戦争の場面がなくても感じることが出来、その時代のそれぞれの人々の思い、皆がそれぞれ懸命に考え生きていたのだと感じました。涙させられました。ありがとうございました。（子育てネット　坂詰恭子　30代）

良かった。

（フォルテシモ　永山）

「24人」の生徒がいて出てくるかと思いきや…。舞台が進むにつれ、日本と韓国（朝鮮）の重い歴史の中に引きずり込まれました。

小生、1944年（昭和19年）生まれです。朝鮮戦争、李承晩ライン、日韓条約、そして現在の朝鮮半島をめぐる南北対立を見聞してきました。改めて歴史を学ぶことの大切さを感じました。甲高く大きな台詞回し、朝鮮の人々のエネルギッシュさが良く出ていたと思いました。

（宙　田口誠雄　70代）

とても素晴らしい劇でした。まん真ん中の1番前の席で、笑いあり、涙あり、歴史に巻き込まれながらも強く生きていく人間の姿に感動させられました。1人1人は皆、良い人たちなのに自分の感情とは関係なく、国家間の戦争に巻き込まれ、いまだにこの問題は解決していません。それでも人と人は分かり合えるはず、そう思わせてくれた劇でした。本当にありがとうございました。

（パンパスグラス　遠藤竜子　50代）

４月１０日の毎日新聞夕刊に、西島小学校の話が出ていた。芝居では、ここの先生や生徒だった日本人と朝鮮人の物語が語られた。日本の敗戦からマッカーサー、朝鮮戦争、日韓条約後まで大変苦しい時代だったのに、人間同士の付き合いの温かさや、希望さえ感じさせてくれた。ありがとう、文学座の皆さん。

（ハッピープリンス　春日井治　７０代）

実際にあった学校の話を、このように演劇という形で伝えていただきありがとうございました。１つ１つの重いセリフの中に、思い、悩み、苦しみ、計り知れない葛藤が表現され心に沁みました。

俳優の皆さんの演技の高さに更に感動が伝わりました。

（宙　石橋須美江　６０代）

## 不二女子高等学校演劇部
## 高校生の感想文

自然な演技やまわりのセットで、知らないはずのその時代の日常に引き込まれて、自分までそこにいるかのような、友だちになったかのような気持ちになりました。笑えるシーンと緊張感のあるシーンの演じ分けが、特に印象に残りました。良平が亡くなってしまった後の、そこにいて我々には見えるのに、友だちの彼らには確実に見えていない、と強く感じるような演技が凄いなと感じました。

（金子笑美　３年生）

舞台のセットがとてもすてきで細かいなと思いました。演劇の中に泣く場合がたくさんあり、本当に泣いているかのような演技で、とても緊張しながら観ていました。それぞれの役の人達が、個性が出ていてすごいなと思いました。

（鍛冶屋ひな　２年生）

最初の舞台のセットを見た時、いまいち題名の『五十四の瞳』との関係がわからなくて、パンフレットを見ても登場人物が二十七人いるようには見えなくて、ずっと題名の由来がわかるのを楽しみにしていて、先生が「二十七人の生徒、五十四の瞳が私を見ている」というセリフを言った時、二十七人の生徒みんなが先生を信頼して、声だけの出演だったけど、楽しく学校に通っているんだと感じて、生徒たちにとって学校は温かい拠り所になっていると思いました。

あんなに誰かのことを思って、叱ってあげたり、良平たちの気持ちをまっすぐに受け取っているところを見ると、確かに信頼度が高いと思うし、私もこういう先生の学校に通いたい！という気持ちになります。途中のキャラ同士の喧嘩の時や、良平が亡くなり、先生が泣いている時の表情を見た時、全員顔や耳を赤くしていて、心の底、魂から演じているように感じて、今後のお芝居の着眼点が変わりました。

（畠山　杏　３年生）

**おめでとうございます！**

**「五十四の瞳」サイン色紙当選者**

| | | |
|---|---|---|
| **1365** | **プラス one** | **岩澤京子さん** |
| **2101** | **さわらび** | **氏家義えさん** |
| **2335** | **アマルフィ** | **柴野智代さん** |

※当選した方は申し出てください。

| | |
|---|---|
| アンケート枚数　27枚 | （回収率1.7%） |
| 当日会員数　　1,858名 | |
| 例会参加者　　1,563名 | （参加率84.1%） |